

## 埼玉県美術展覧会審査評

### 【第5部 書】

審査主任 くりさき 栗崎 こういちろ 浩一路

第69回展の書の総出品点数は512点、公募出品点数は433点です。前回展に比べ、総数で19点、公募で18点の減でした。出品数の減少は残念なことです。出品者が県全域に亘っており、その年齢層が幅広いこと（高校生から101歳まで）など、この県展が多くの県民に支えられて開催されていることに喜びと希望を感じています。

審査結果を決める鑑別は、厳正公平に三次鑑別まで行い、入選258点（入選率59.6%）を決定しました。県展の厳しさは周知の通りです。今回展では、入選は叶いませんでしたが101歳の方からの出品がありました。温かく楽しいその作品は今も記憶に残っています。いつまでも筆を持ち続けていただきたいと思います。

入賞は、慎重且つ丁寧に三次審査まで行い、特選10点を決定しました。何れも作者の意図が表出した優れた作品です。委嘱から受賞した埼玉県美術家協会会長賞と高田誠記念賞と合わせた12名の受賞者は、今後も県展で輝き続けてください。受賞するということは榮譽や喜びとともに、作家としての責任と覚悟が必要です。更なる活躍を期待しています。

#### ・埼玉県知事賞

おういし 「王維詩」 たかおか 高岡 ほうりゅう 豊流

字形は極限まで省略した姿を優先しています。自信に満ちた力感溢れる運筆は、文字學に対する深い造詣の上に築かれた長年の経験が基盤となっていることが伺えます。やり過ぎず、気品を漂わせる作品は、観る人に心地良さと安心感を与えてくれます。ベテランだからこそ表現できた伝統から創造という大きな課題に対する一つの答えではないでしょうか。

#### ・埼玉県議会議長賞

けいこう 「京口」 よしの 吉野 れいか 麗香

この作品は、墨量を絞り、筆圧をかけた力強い線で書かれており、迷いのない運筆が気迫となって心に響きます。静かな書き出しで始まり、徐々に気持ち

の高ぶりによる大胆な表現になっています。

特に、二行目中心部の「舟斷岸随」には壮快感があり、作品を魅力的に構成する作者の意図を感じます。作品全体としての構成も良く、技術的に高度な作品です。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「<sup>まつ</sup>松かげの・・・」 <sup>すがや</sup>菅谷 <sup>しすい</sup>志水

仮名の大字作品です。大胆な柄で美しい加工料紙にマッチさせたダイナミックな構成の作品です。力強い筆致で全体を締めてバランスを取り、明るく魅力的に仕上げています。料紙の扱いは難しいものです。これからも充分工夫され、受賞を励みにますますの活躍を期待します。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>とほし</sup>杜甫詩」 <sup>あきば</sup>秋葉 <sup>しゅうがい</sup>秀厓

この作品を見たとき、まず、線の切れ味に圧倒されました。微妙に変化する角度にも、心地よいリズムを感じます。行間を広く取ることによって、夕テへの流れを強調したところが、明るく素晴らしい作品に仕上がったポイントだと思います。ますますの活躍を期待しています。

・埼玉県美術協会賞

「<sup>おうこうし</sup>黄庚詩」 <sup>おおむろ</sup>大室 <sup>こうぎよく</sup>紅玉

柔らかい羊毛の長鋒の筆を駆使して、穂先まで精神を充実させた力作です。その筆力、粘りなどによる重厚にして繊細な線質の変化、熟練した運筆は、リズム良く実に見事です。また、この自信に満ちた大胆な躍動感、行間の余白に余韻を漂わせる心の味を感じさせ魅力的です。今後の活躍を期待します。

・埼玉県美術協会賞

「<sup>そうせきのし</sup>漱石詩」 <sup>かわむら</sup>川村 <sup>さいうん</sup>彩雲

漱石の季節を詠った七言絶句を揮毫しています。起句「風吹遠樹・・・」ゆったりとした優美な書き出しです。「天地有情・・・」転句で一転し、個性的でリズムカルな運筆に変わります。全体の調和を重視して結句を結びました。同じ書風が多く出品されている中で全く異なる作品として感じてしまうのは、いかに作者が詩を読み込み、墨色にまで詩中の空気を漂わせ、詩と漱石の心に触れようとしているからではないでしょうか。

・さいたま市長賞

「恋」 こい おおやま みつほ  
大山 光穂

仮名の細字作品です。新古今和歌集十四首を、繊細で切れのある線と力強い線とで表現し、全体を調和させています。大胆な構成の中にも、古典を踏まえて流麗に美しく表現していることは、観る人にも落ち着きと魅力を感じさせることと思います。とても豊かで安定感のある作品です。

・さいたま市議会議長賞

「王文治詩」 おうぶんちし さと ほうりん  
里 芳倫

この作品は、四行の行間の中に、墨の黒と余白の白の美しさが、顕著に表現された作品で、作者の錬度の高さが伺えます。

「墨を置いていく」という表現がありますが、この作品には、それが感じられる格調の高い作品です。今後、ますますの活躍を期待しています。

・読売新聞社賞

「この年」 とし わたなべ すいれい  
渡邊 翠麗

調和体の魅力は、読みやすいこと。この作品は、行書体を主として、行間の流れで変化をつけ、強い線と温かみのある線とを織り交ぜることで、明るく美しい作品に仕上げています。現代に生きている作品といえます。

・テレビ埼玉賞

「劉基詩」 りゅうきし まちだ ぶざん  
町田 武山

文字の大小、線質の変化、潤濁、行の振幅、筆圧の変化など、まさに熟達した作品といえます。また、自由自在に空間を処理し、その大胆なリズムが作品に心地よい躍動感を与えて魅力的です。今後、より一層の活躍を期待します。

・埼玉県美術家協会会長賞

じょうけんし  
「常建詩」

こみね せいこ  
小峰 青湖

淡墨で、詩文の詩情性を叙情的に表現している作風です。この作品の線質は、筆の鋒先の紙へのタッチが、鋭くして強く、そして深く食い込んでいます。その線條美は、文字空間、余白にも響きを放っている力作であります。墨量の変化による潤湯、大胆な構成、筆法のリズムなどは、実に見事で素晴らしい優作です。今後の更なる発展を期待します。

・高田誠記念賞

はんせゆうじょう  
「盤施揖讓」

あらい あきえ  
新井 昭江

生命力の根源を思わせる篆書と呼ばれる古代文字。四文字を木彫風の律動的な線で、畳み込むように刀を引き、倒し、切る。観ていると石と鐵筆の心地よいリズム音までもが伝わってくるようです。この方寸のわずかな世界の緊張感、均等に分割された朱白のデザイン的な文字のおもしろさは、観る人に思わず「おしゃれ」と言わせるかも知れません。単入法で力強く彫り上げた側款も見事です。